

米沢興譲館 SSH通信

第1号

平成24年6月20日

米興高SSH企画部

本年度、本校は文部科学省より平成28年度までの5年間、スーパーサイエンスハイスクール(以下、SSHと略す)の指定を受けた。国家的な事業であるSSH指定は、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとし、理数系教育の充実をはかる取り組みである。

平成14年度(SSH事業開始初年度)、文部科学省は全国で26校をSSHとして3カ年の指定を行った。その中の一つであった本校は、学校設定教科『生涯科学』によるカリキュラム開発や高等教育機関等と連携した校外学習資源の有効活用法の開発、理工部の部活動支援、高大連携による教員の指導力向上、そして、全教科による「科学する心」育成の取り組み等を展開してきた。

前回の指定終了から今回の指定まで7年間の期間があったわけだが、その間もSSH継承事業として、学校設定教科『生涯科学』を理数科で実践し、全校生徒を対象として校外学習資源を活用した事業を継続するなど、「科学する心」をつないできた。また、平成19年3月には、山形大学工学部と高大融合協定を締結し、大学の講義を本校生が受講でき

24文科初第164号

スーパーサイエンスハイスクール 指定書

山形県立米沢興譲館高等学校

スーパーサイエンスハイスクール
実施要項(平成14年4月10日文部科学大臣決定)に基づき貴校を平成24年度から平成28年度までスーパーサイエンスハイスクールに指定します

平成24年4月1日

文部科学大臣 平野博 文

理数教育の最先端、SSHに本校が指定

日本の将来を担うサイエンスイノベーター育成

表現力・国際性の育成

卓越研究者の
素養を育む研修

発展型課題研究

SSH成果の普及と継承

異分野融合サイエンスとフィールドワーク研修
(科学の裾野を広げる)(センス・オブ・ワンダー体験)

る等の制度構築も進んできた。

そのような中、今回のSSH指定により、前回の指定時の課題を踏まえながら、さらに発展させた取り組みを実施していく予定だ。

前回のSSH指定時の課題としてあげられた主なものは次の通りである。

- (1) 地域や他校、とりわけ中学校へのSSH事業の取り組みの発信が不十分であった。
- (2) 英語力の重要性や国際化を意識させるような事業が不十分であった。

これらを受けて、今年度より当面3年間を見据えた本校のSSH構想を右の概略図として表した。まず、1年生を主対象として学校設定教科・科目『異分野融合サイエンス』を展開する。これは、全教科が協働することで、様々な学問領域を融合させ、地域の科学関連企業やNPO法人などの各種団体、大学や研究機関と連携を図りながら体験的な実験講座や演習、企業訪問研修等を行うものである。低学年の段階で様々な分野を「自然科学」の切り口で学ぶことにより、自然科学に対

科学の裾野を広げる異分野融合サイエンス

する興味・関心が増大し、あわせて科学技術リテラシーの涵養を促す取り組みとなる。この事業を通し、地域との連携を深め、前回のSSH指定時の課題(1)を克服していく。

また、下表(平成23年度本校生を対象とした調査結果)に示したように、幼少期の科学実験教室への参加経験の有無が、高校段階での科・系選択(進路選択)に大きく関係してくることもわかった。したがって、あわせて、小中学生に向けた体験型の科学実験教室を実践することで、地域との連携とあわせて科学の裾野を広げる取り組みを進めていく。

さらに、これら低学年時の学びによって、科学の面白さや奥深さに気づき、そのような学問をさらに深く学んでいきたいという生徒に対しては、2年生以降から卓越研究者の素養を育む研修等に取り組みしていく。日本の将来を担うサイエンスイノベーター(卓越した研究者)になるためには、豊かな表現力や国際性が備わっている必要がある。国語科や英



SSHオリエンテーション後の理数科集会の様子。先輩より後輩へ「科学する心」を伝えてくれた。



語科と協力しながら、海外研修等も見据えた事業も展開していく予定だ。これらによって前回SSH指定時の課題(2)も克服していきたい。

	参加あり	参加なし	参加%	有意差
普通科文系	16	123	11.5	※
普通科理系	21	102	17.1	
理数科	19	56	25.3	※
総計	56	281	16.6	

小学生時代の科学実験教室への参加経験の有無と高校における科・系選択の関係 ※: p<0.05 (χ^2 検定)